

当院にてぶどう膜炎でご加療中の方へ

当院では「前部ぶどう膜炎患者における虹彩萎縮と虹彩体積の関連（多施設共同前向き後向き観察研究）」を行っております。この研究は前部ぶどう膜炎の原因と虹彩の形態学的変化および虹彩体積の関連性に明らかにすることを目的とする研究で、東京大学医学部附属病院眼科で行っております。

【対象となる方】

2015年7月1日から2016年12月31日の間に本院眼科で前部ぶどう膜炎と診断された患者様。

【研究の意義】

これまでも前部ぶどう膜炎の原因疾患によって虹彩萎縮を起こしやすい病気と起こしにくい病気があると考えられていましたが、虹彩萎縮を評価方法は曖昧でした。前眼部光干渉断層計（SS-1000 CASIA (TOMEY)）は弱いレーザー光を用いて眼球の形態を記録する機械で、ぶどう膜炎の外来診療でも日常的に行われる検査になっています。この機械によって虹彩の体積を正確に測定できるようになりました。虹彩の形態や虹彩体積の測定結果と前部ぶどう膜炎の原因疾患の関連性を調査することは、前部ぶどう膜炎の診断の上で非常に重要な情報になる可能性があります。

【研究の目的】

虹彩の形態や虹彩体積の測定結果と前部ぶどう膜炎の原因疾患の関連性を調査することです。

【研究の方法】

この研究は、様々な原因によって起きた前部ぶどう膜炎の患者様の虹彩の性状や形態を、細隙灯顕微鏡検査、前眼部写真撮影、前眼部光干渉断層計（SS-1000 CASIA (TOMEY)）を使って調べ、病気の原因ごとにどのような特徴があるかを調査することを目的としています。具体的には、当院の電子カルテや画像システムに記録されている患者様の年齢、性別、前部ぶどう膜炎を起こした眼（右・左）、病名、発症後期間（年）、手術歴、虹彩萎縮の程度、虹彩体積、治療薬などを記録し、多数の患者様のデータをまとめて、病気の原因ごとに統計的に検討します。特に患者さんに新たにご負担いただくことはありません。

この研究のためにご自分のデータを使用してほしい場合は主治医にお伝えいただくか、下記の研究事務局まで平成30年3月31日までに御連絡ください。ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

研究結果は、個人が特定出来ない形式で学会等で発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後5年間保存されます。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問い合わせがあれば開示します。下記までご連絡ください。ご不明な点がございましたら主治医または研究事務局へお尋ねください。

平成29年 12月

【研究機関名】

東京大学医学部附属病院眼科 講師 蕪城 俊克（主たる研究者、統括、データ収集）

東京大学医学部附属病院眼科 助教 田中 理恵（データ収集）

東京大学医学部附属病院は分担研究施設に登録しています。

本研究に経費は必要としませんが、もし必要な場合には、蕪城 俊克の委任経理金より拠出します。尚、あなたへの謝金はございません。

【問い合わせ、苦情等の連絡先】

東京大学医学部附属病院・眼科 講師 蕪城 俊克（かぶらき としかつ）

住所：東京都文京区本郷7-3-1

電話：03-3815-5411（内線 37499） FAX：03-3817-0798

Eメールでのお問い合わせ：kabutosi-tky@umin.ac.jp

医療機関名 東京大学医学部附属病院

診療科名 眼科 診療科責任者名 教授 相原 一